

# わが国ICTベンチャーの 創出・育成に向けて

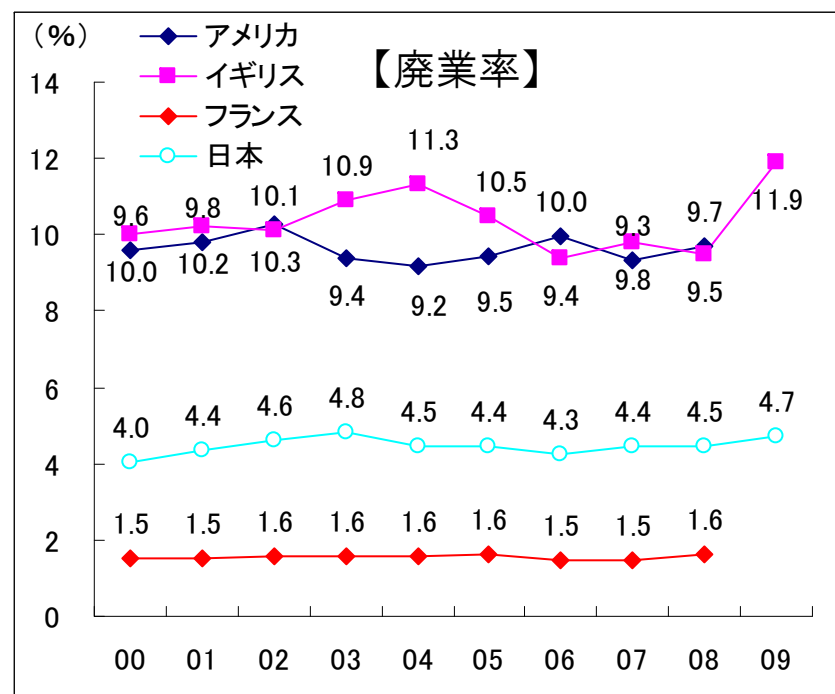
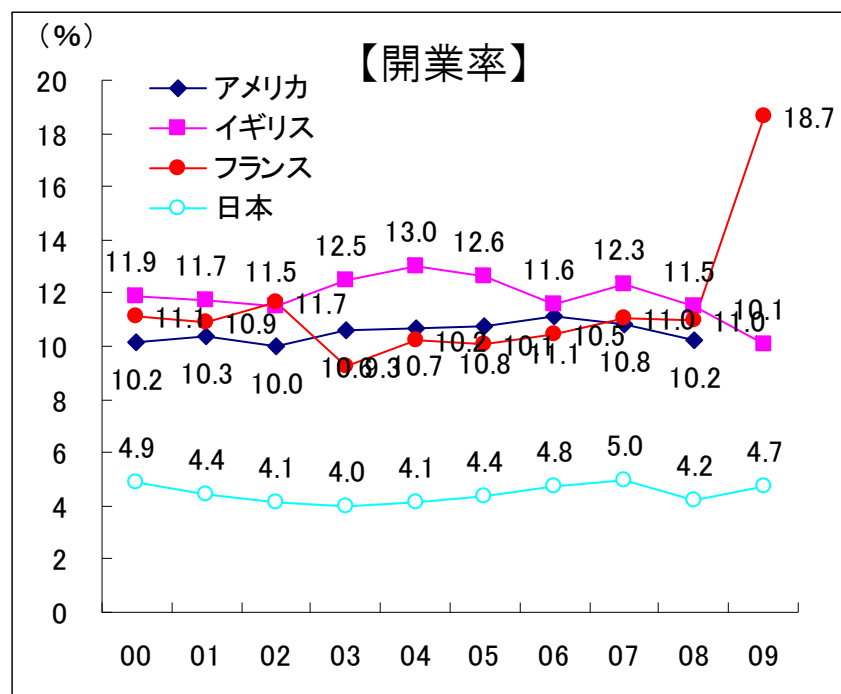
2011年2月23日

日本総合研究所 調査部

野村 敦子

# 1. 活発でない企業の新陳代謝

## □低い開業率・廃業率



(資料) 日本: 厚生労働省「雇用保険事業年報」、アメリカ: Small Business Administration Office of Advocacy、イギリス: Office for National Statistics「Business Demography」、フランス: INSEE

次世代の国づくり

## 2. ベンチャーファイナンスの概要

### □企業の成長ステージに応じた資金調達とサポート

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年
発展段階	シード/スタートアップ		アーリーステージ		エクспанション(ミドル)		レイター・メザニン
VC投資	シード/シリーズA		シリーズB	シリーズC	シリーズD		
資金調達方法	自己資金(友人・親類等含む)		政府・公的機関の助成金・補助金・開業資金融資		エンジェル投資家		事業会社(CVC/Strategic Partner企業)
	ベンチャーキャピタル		公的機関・自治体等制度融資		民間金融機関の融資		証券発行(CLO、CBO、社債等)
EXIT			未公開株取引		M&A		IPO

### 3. わが国のベンチャーファイナンスの課題

#### □成長ステージごとの手段・機能の不足

- エンジェル(資金+目利き)
- VC、PEファンド等のハンズオン機能
- 長期的な投資を行う機関投資家
- EXIT手段

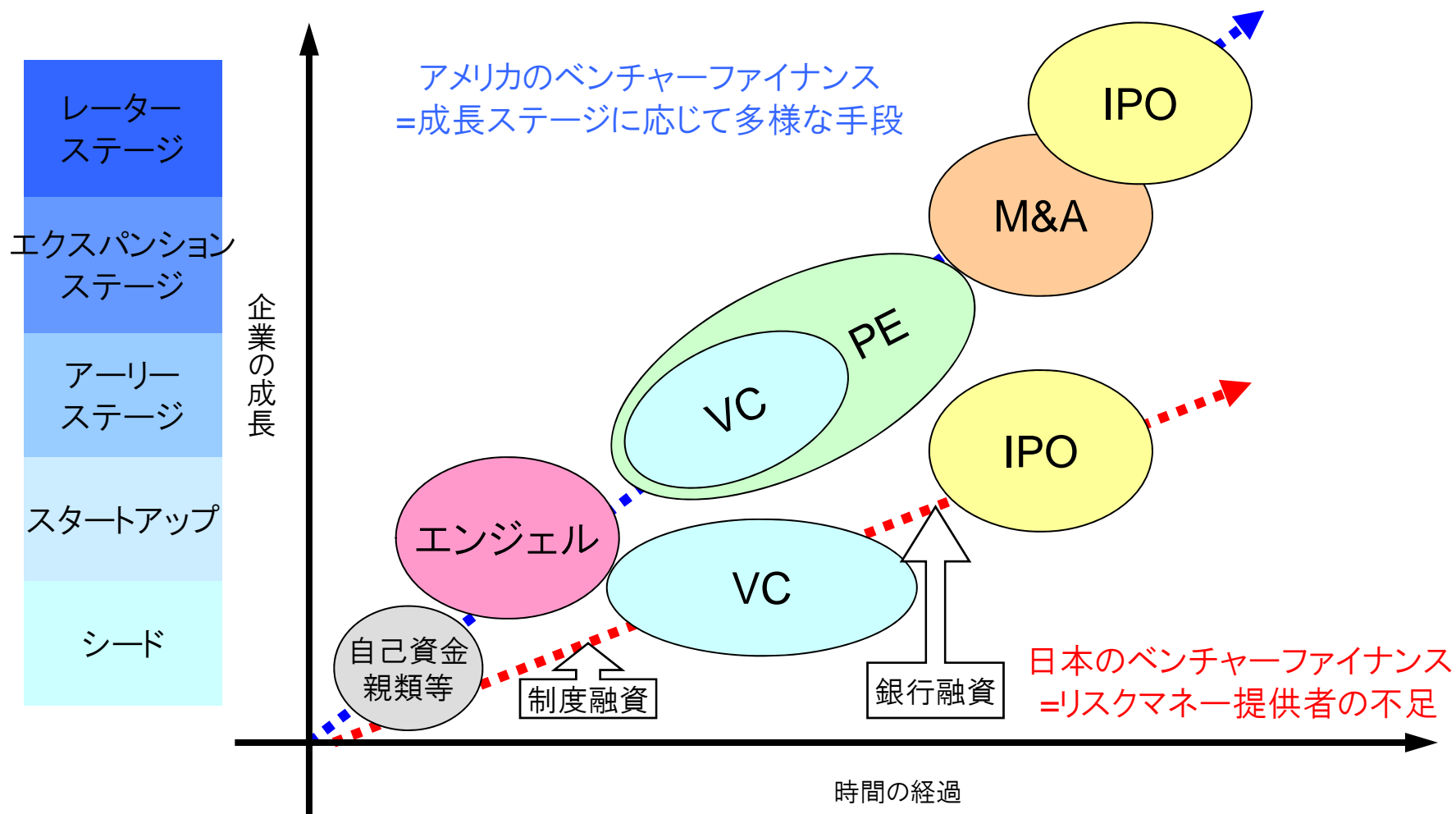
などの不足

#### □これまでの対応策

- エンジェル税制
- 各種制度融資
- 新興市場創設
- 多様な事業体(LLP、LLC等)

しかし、必ずしも機能していない

## 4. ベンチャーファイナンスの日米比較



## 5. ベンチャーファイナンスの問題

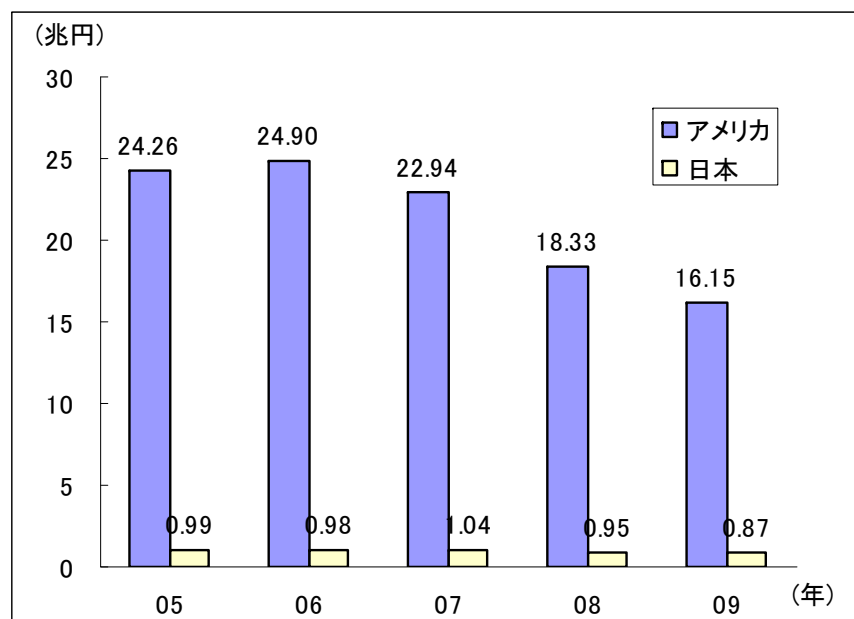
### ロどのような問題が生じているか

- 初期の段階等で多額の資金を必要とし、投資が長期間に亘る技術系ベンチャーが登場しにくい・育たない
  - リスクを避け、小規模・分散投資が中心で、育成を主導する投資家(本来の意味のベンチャーキャピタリスト)が不在
  - 企業規模が小さいため、長期的な投資を行う機関投資家の投資対象となりにくい
  - 早期に投資資金を回収しようとする、企業として未成熟な段階でのIPOが行われやすい
- ⇒新興市場の健全な発展にも影響

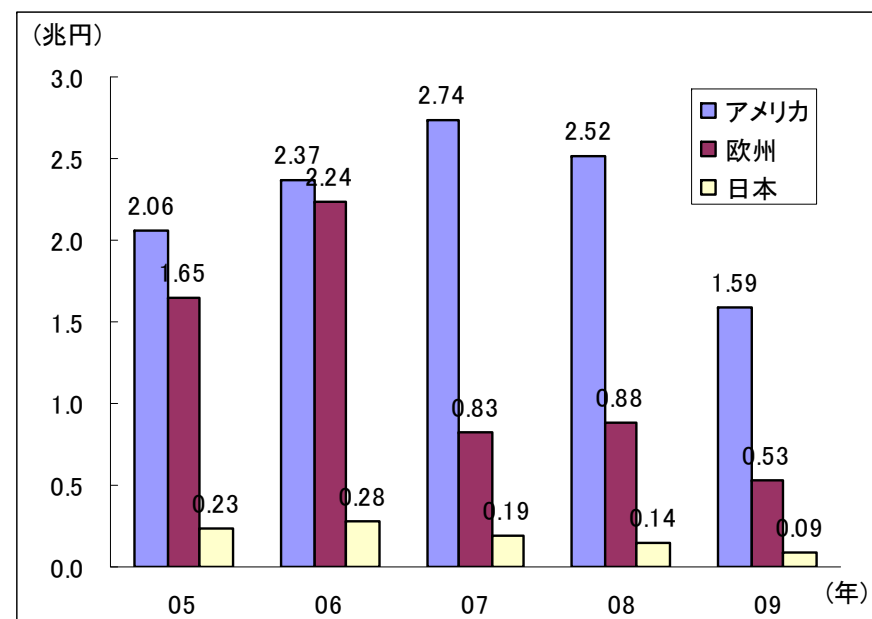
## 6. ベンチャー企業に対する投資額の比較

口わが国は経済規模、資本市場規模に比べ、極端に  
少くないか

【投資残高】



【年間投資額】



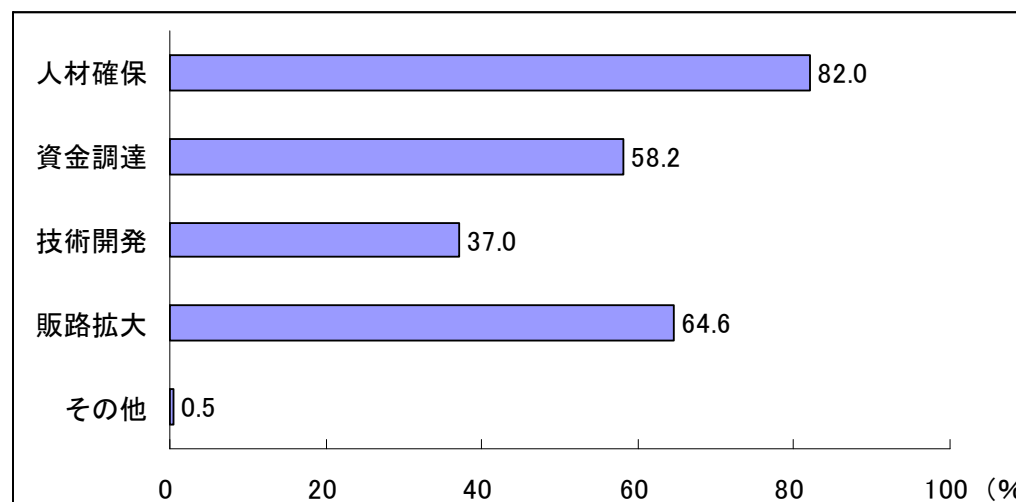
(資料)ベンチャーエンタープライズセンター「ベンチャービジネスの回顧と展望(ベンチャー白書) (平成22年度)」

次世代の国づくり

## 7. ベンチャービジネスの経営上の課題

### □不足する経営資源

- 人材
- 資金
- 技術開発
- 販路・マーケティング



(資料)ベンチャーエンタープライズセンター「ベンチャービジネスの回顧と展望(ベンチャー白書) (平成22年度)」

□不足する経営資源の供給者は誰が担うべきか？

□情報はどこにあるのか？



## 8. イノベーション・エコシステムの構築

□ベンチャーは様々な外部資源(エコシステム)を利用して成長 ⇒ サポート体制(有機的連携)の構築

□大企業とベンチャー企業の連携(コーポレートベンチャリング): 社内ベンチャー育成ばかりでなく社外ベンチャーとの関係構築

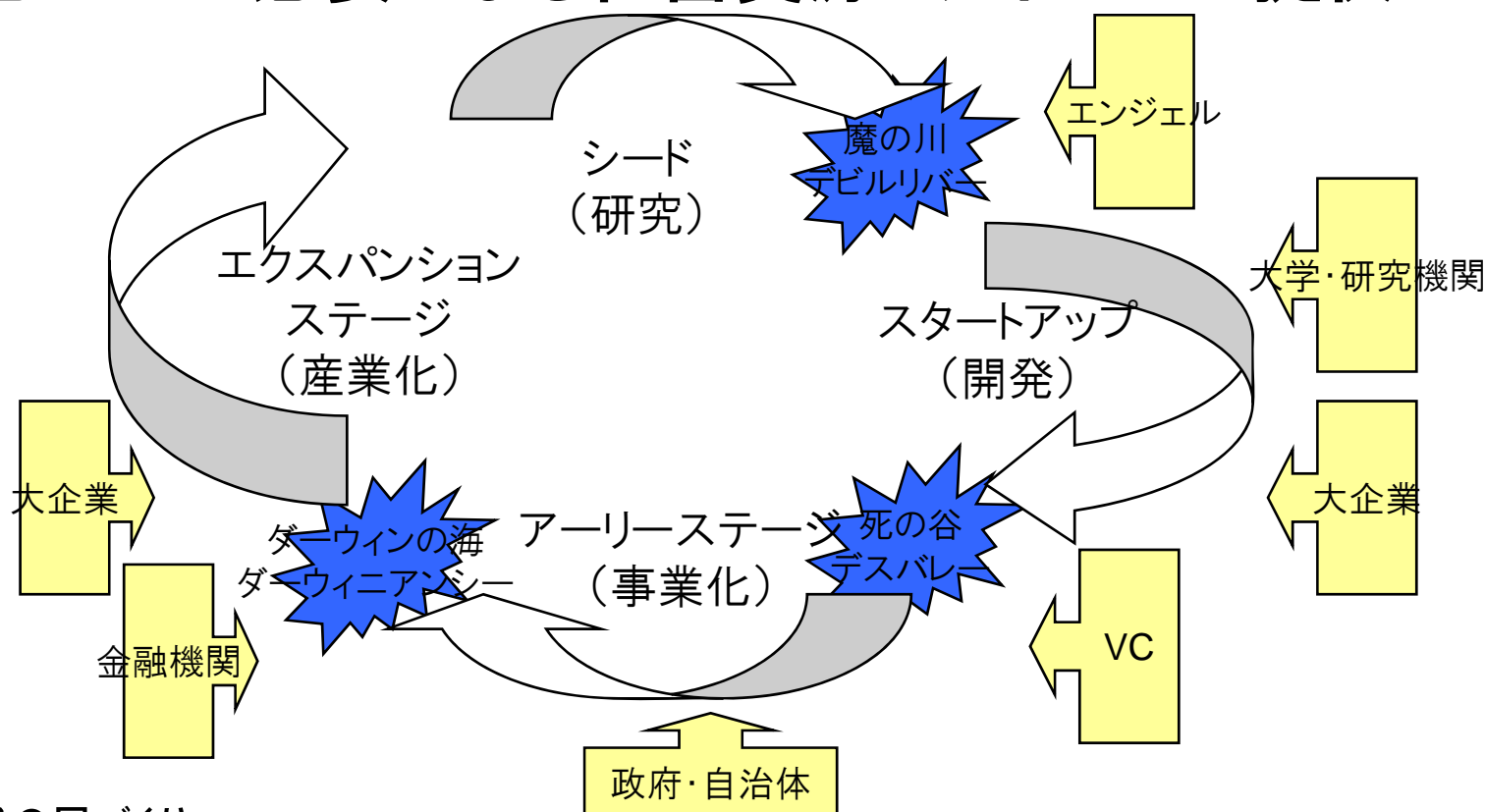
- シーズ、資金、人材、情報、販路、EXIT
- 大企業にとっても時間・コスト・リスクの削減

□政府・自治体・公的機関によるサポート

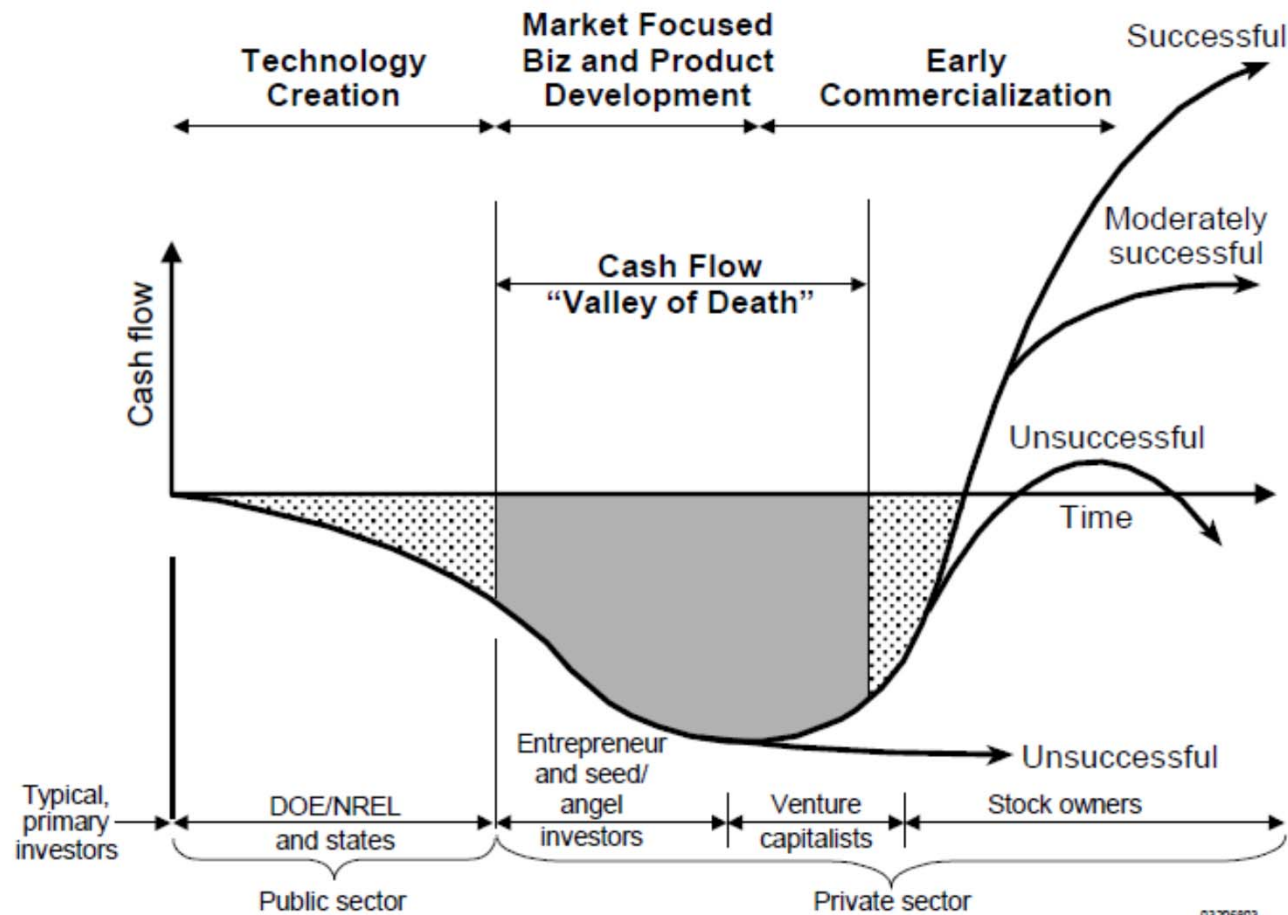
- シーズ、資金、情報、販路
- SBIR: 最初の買い手、政府のお墨付き

## 9. 連鎖的なサポートの必要性

単なる資金供給というばかりでなく、次のステージに進むために必要となる経営資源・サポートの提供



## <参考> The Valley of Death



L. M. Murphy and P. L. Edwards "Bridging the Valley of Death: Transitioning from Public to Private Sector Financing"

## 10. ICTベンチャー育成と政策

### □ICTは様々な分野に必要とされる社会的インフラ

- 医療、農業、教育、環境、エネルギー、交通、行政 etc.
- =省庁間の連携、協働の必要

### □ICTベンチャーと一口に言っても裾野が広く多岐にわたる

- 重点戦略・育成分野の明確化

### □多様な参加者の協力体制の構築

- 民と官の棲み分け／連携

### □長期的な視点での支援の必要性

## 11. 新産業創出戦略に必要と思われる視点

### □ターゲット市場

- ターゲットの明確化
- 対象となる市場
- 不足する経営資源の調達

} ⇒ 国内市場にだけ目を向けていてよいのか

### □競争力の尺度の変化

- ハード→アプリケーション
- 技術(only)→+a: ニーズ、付加価値、ビジネスモデル etc.
- 国内でのシェア獲得→グローバルネットワーク  
グローバルプラットフォーム

### ⇒アジアの成長をいかにして取り込むか

- わが国の利活用: 社会的課題のICTによる解決⇒アジアへの移植
- ハードとソフトのパッケージでの提供